執行方針

要約



子どもたちの健やかな成長と創造性豊かで調和のとれた生涯学習社会の実現に努めます

教育長　中島　光弘

本年度は、文部科学省が指定する「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業」のモデル地区として、子ども達の土曜日の教育活動の支援のため、地域の多様な経験や技能を持つ人材や企業、そして、自然・文化などの豊かな社会資源を活用し、本町が推進する「読書と作文のまち」施策と併せ、学校・家庭・地域・行政がもつ教育的な機能を効果的に発揮し、教育支援体制の構築を図ります。

●学校教育分野

①「今金町における特色ある複式教育の在り方の検討」

今金町の学校配置は、昨年度より小学校においては複式校が種川小学校の1校となったことから、本町の特性を生かした望ましい複式教育が今後も実践されるよう検討委員会を組織し、通学区域の弾力化や特色ある学校づくりについて調査研究をすすめます。

②「確かな学力の育成」

各学校の学力向上に向けた取り組みを積極的に進めるため、児童生徒の学習課題を把握し、少人数指導やティームティーチング、習熟度別指導、放課後の学習サポート、小中学校教員相互乗り入れ授業などに取り組みます。また、「読書と作文のまち」施策の具現化により家庭学習の習慣化や生活習慣の改善にも取り組みます。

③「生徒指導の充実」

人を思いやる「心の教育」を推進し、いじめや不登校の未然防止を基本に、児童生徒の発する心のサインを敏感に受けとめることのできる生徒指導の充実を図ります。

④「安心・安全な教育環境の充実」

地域と連携・協力した地域ぐるみの防犯体制の充実に努め、児童生徒の安全を確保するとともに災害発生時に子ども達が的確に行動できるよう避難訓練や自ら危険を回避する力を育てるため、関係機関と連携し防災教育の一層の推進に努めてまいります。

⑤「信頼される学校づくりと教職員の資質向上」

教師は、教育者としての使命感、責任感をもち、子ども達や保護者、地域から信頼されることが求められていることから、各種研修による指導力の向上や資質向上に努めます。

⑥「学校図書室の充実」

学校図書室については、学校図書室の利用と読書を通じて児童生徒の創造力を培い、学習に対する興味や関心を呼び起こし、豊かな心を育むため、図書室司書を派遣する「移動図書室～こんにちは司書です。こんにちは図書ボランティアです。」事業を通じ、児童生徒の読書相談、調べ学習でのアドバイスなどを行う支援に取り組みます。

⑦「子育て支援の充実」

療育の拠点である今金町子ども発達支援センター「きらきらクラブ」、学童保育所「ルンルン子どもクラブ」、へき地保育所、認定こども園いまかねなどの連携を一層図ります。

⑧「特別支援教育の充実」

特別な支援を必要とする可能性のある小学校就学予定児や現在普通学級に在籍する児童生徒を対象とし、保護者や教職員が将来を見据えた適切な子育てや特別支援教育が実施されるための専門的な相談機関として、現有の今金町就学指導専門委員会の中に新たに設置する専門家チームや子ども発達支援センターがその役割を担う新たな施策に取り組みます。

⑨「幼児教育並びに高等学校、特別支援学校との連携」

幼・小・中・高校の連携は系統的な教育を推進するための基礎となることから、移動校長会・教頭会として認定こども園や養護学校、各学校などを会場とし、相互理解に努めます。

また、中・高連携として高等学校の理科教諭の中学校乗り入れ授業や特別支援に関する連携について努めます。

⑩「学校給食と食育・食農教育の推進」

学校給食については、文部科学省が定める衛生管理基準に基づき、衛生管理を徹底するとともに安全で安心な地域性豊かな魅力ある学校給食を

提供します。また、地域全体で取り組む観点から、昨年度策定された「今金町食育実践計画」と連動した施策の推進や栄養士ネットワークの専門性を生かした食育・食農教育の推進に努めます。

●社会教育分野

①「学校教育と社会教育の連携・融合」

「学社融合ファイル」の見直しや効果的な活用のためコーディネート機能の充実を図るとともに部活動等における地域人材（外部指導者）の効果的なかかわりを推進します。

また、文部科学省が指定するモデル地区として「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業」を学社連携・融合の観点からも取り組みます。

②「大学及び教育関係機関等との連携」

本町の学びのパートナーとして、北海道教育大学札幌校・岩見沢校、北星学園大学、北翔大学との連携を推進します。また、図書振興における道立図書館との連携と合わせ、本年度は新たに石狩市民図書館や藤女子大学との連携についても推進します。

札幌交響楽団との連携により指導者の派遣をいただき、中学校吹奏楽部を対象とした「第1回 IMAKANE Music Summer School」を広域交流事業として今金町総合体育館をメイン会場に吹奏楽技術の向上はもとより発表機会や住民の鑑賞機会の拡充に取り組んでまいります。更には、北海道立近代美術館との連携により子ども達が美術館の機能を体験する「まるごと近代美術館体験事業」を実施します。

③「家庭教育の推進」

本町が推進する「早ね・早おき・朝ごはん」運動や「毎月19日は食育の日」運動を通して、食事や睡眠などの大切さの理解のため多様な学習機会や情報提供とともに情操を豊かにする取り組み「読書と作文のまち」の推進など地域の教育力を活用し充実を図ります。

④「成人教育の充実」

成人のための学習支援として「今金ふるさと塾」を開設し、年間を通じた学習プログラムの提供や町内講師、外部講師を招聘し、お出かけ学習など関連する既存事業等との連携と連動を図りながら融合型の学習機会を提供します。

本年度は、今金町青年会議が創立40周年、今金町女性団体連絡協議会が創立60周年を迎え、また、第61回檜山女性大会の今金町での開催と各種記念事業が計画されていますので引き続き支援します。

⑤「文化芸術の振興」

町民の皆様が心の豊かさを求めて日常的に活動している文化芸術活動の発表の場として総合文化祭の内容の充実に向け支援するとともに地域文化の継承と発展に努めます。

⑥「図書活動の推進」

本町における図書活動は、昨年第10回を迎えた「いまかね図書まつり」や図書ボランティアのみなさんの活発な活動により本への関心や本とふれあう機会が拡充されています。広がりのある支援に努めます。また、「今金町図書振興計画」及び「第2次子ども読書活動推進計画」に基づき、町民センター図書室を中心とする図書環境の整備・環境づくりを進めるとともに学校や関係機関の連携のもとに「読書と作文のまち」施策を推進します。

⑦「国際交流の推進」

本年度は、ニュージーランドバーンサイド高校の受け入れ事業が実施されることから、ホームステイや交流事業を通じ国際交流の推進を図ります。また、国際交流推進アドバイザーの配置により、小学校における英語活動や外国語活動のサポート、そして中学校の授業における積極的な活用を進めます。さらに、幼児施設への訪問や町民の英会話教室など国際理解の輪を広げます。

⑧「生涯スポーツの振興」

それぞれの体力や年齢に応じた多様なスポーツや体力増進に取り組むことができるよう、各種スポーツ大会の開催や体育協会、スポーツ少年団本部、総合型スポーツクラブとの連携を図るとともに基礎となる就学前の幼児の体力向上施策について、関係機関と連携して取り組みます。

⑨「文化財保護の振興」

昨年度、開館10周年を迎えたピリカ旧石器文化館が、本町の文化財保護振興の拠点となることは勿論ですが、他の博物館施設や学芸員とのネットワークや連携により動きのある魅力的な施設となるよう取り組みます。

⑩「社会教育施設」

本町の社会教育施設、とりわけ住民のスポーツ活動の中心として活用いただいている今金町総合体育館については、開館して37年が経過し、老朽化が進んでいることや建造物の耐震化の促進のための規制が強化されていることから、本年度は、耐震調査を終了し、今後の施設改修等の在り方について検討します。また、総合体育館を活用した効果的な学びの拠点事業についても検討します。

本町の美しい自然や先人が育んできた優れた伝統や文化など、恵まれた風土や環境を生かし、ふるさと今金町の未来を担う子どもたちの健やかな成長と、創造性豊かで調和のとれた生涯学習社会の実現のため努めてまいります。